

報道委員会だより

報道委員：2年久保田美羽・津波古夏帆

2018/06/20

6月13日（水）に行われた平和講演会について報告します。

まず、講師について説明します。

講師の大田光さんは、福岡県の大学を卒業して、沖縄県に住み始めました。沖縄に来て一年目から、沖縄一中（現 首里高校）学徒隊資料展示室解説委員の語り部として、沖縄戦の悲惨さを伝えています。



講師の話によると

戦時中に豪の中で、当時の中学生が書いた遺書があるそうです。遺書の現物が今もあると言っていました。その現物のなかには、読める物もあって読める物は家族に渡していると言っていました。遺骨のかわりに、つめや髪の毛を持っている人もいたと言っていました。

太田さんの講話の中で 山田さんというおじいさんの名前が出てきました。残念ながら10ヶ月前にお亡くなりになったそうです。当時、山田さんは、15歳。自分の同級生を目の前で亡くしたトラウマがずっとあったようです。山田さんは、戦後も毎週のように摩文仁を訪れてお祈りをしているとのことでした。最初は、戦時中のことについて、誰にも話したがりなかったようです。

大田さんのインタビューに応えるうちに山田さんは、「今の世の中は戦時中と雰囲気似ている、だからこそ今の自分にできることは何か？」と仰っていたようでした。ここ十年くらいは、取材などを承諾して、戦争について語っていたようです。



感想

太田さんの話を聞いて、戦争を体験した人たちの心には、あのときの悲惨な出来事が、よみがえるということがわかりました。今日の講演会を聞いて私たちは、過去の事例をしっかり理解してから、物事を決めていかないといけないなと思いました。